

最高に楽しい6分間でした

タイトルに記したのは、パリオリンピックのレスリング競技で金メダルを獲得した日下尚選手の言葉です。特別な一言なのですが、私には「あれ？どこかで聞いたような…」とひっかかるものがありました。少し調べてみると、日下選手は2000年、シドニーオリンピックが開催された年に生まれ、その年に女子マラソンで金メダルを獲得したのが、岐阜県出身の高橋尚子選手です。あの時、高橋選手は言いました。「レースは42キロと思えないほど短く感じて、楽しいものでした。」と。日下選手の「尚」という名前は高橋尚子選手にちなんでつけられ、「名前の由来を追いたい」と努力を重ねてきたそうです。彼は、「自分と過去の練習を信じて前に出続けた」のが勝因だと言っています。20年以上の時を経て、才能ではなく努力を大切にすること、最後は「楽しかった」と言うバトンがいま渡されたのだとわかりとても感動しました。

私が多くのオリンピックの中で高橋選手のことを覚えていたのは、岐阜県出身というより、彼女がはじめから天才と呼ばれ、マラソン競技で目立つような選手ではなかったからです。それが彼女自身の努力と創意工夫、そんな彼女だから出会えた周りの人々の支えがあり、ついに世界一までたどり着いた。そのサクセスストーリーが魅力的で長く心に残っていたのです。

この点で他のスポーツを見ても、サッカーの日本代表にも選ばれた長友佑都選手が、大学時代はスタンドで応援をしていたことは有名です。また、連日記録を更新して世界を沸かせているドジャースの大谷翔平選手が何十回も読んできた漫画として『スラムダンク』を挙げていましたが、もっとも自分に似ているキャラクターはと聞かれると、華やかな選手ではなく、練習の鬼と呼ばれるような選手である神宗一郎を選んでいきます。

さて、大学入試問題を解いていると、才能か努力かをテーマにした英文をみかけることがよくありますが、興味深いのは、才能と努力は常にどちらかが優位に働くわけではなく、その人が信じている方に結果も伴うという結論です。「才能」を信じる人は、自分の能力は変わらないと決めつけている「硬直マインド」な人であり、能力があれば努力はしなくても簡単にできるはずだと考えます。その結果、努力もしないで、自分の能力がないことを証明されるのを極度に恐れます。一方、自分の能力は努力で変わると考える「しなやかマインド」な人は、能力が変わることが前提なので失敗を恐れませんが、努力して少しでも改善すれば嬉しくなります。金メダルをとることはすぐにはできませんが、次のテストで10点アップすることは？少しの変化にこそ価値がある。今できることを考え作戦をたてましょう。(文責：桑原)

♪3年の窓♪ 勉強しようとする人に向けて、ポストモダン的な「ノリ」の悪い語りを試みたかった。

だが私のもつ勉強哲学は、自力救済の理念くらいのものだ。ポストモダン(フリードリヒ・ニーチェの予言した「正解のない現代世界」)的要素はあるが、圧倒的に未熟である。幸い、I先生の助手的存在として勉強に向き合うなかで、現代日本の最前線の哲学者、千葉雅也にも会うことが出来た。今回は、『勉強の哲学 来たるべきバカのために 増補版』(文春文庫、2020)を参考に論じてみる。厳密な引用が出来ないこと、申し訳ない。

勉強とは、自己破壊である。「これまでの環境で安住してきた自分」と決別することである。新たな知識・技術を獲得して、もうあの頃の「バカ」には戻れなくなる。勉強とは、わざと「ノリ」の悪い人になることである。だから、我々は(個人差はあれ)勉強を嫌悪する。だが、「構造」のうちに無意識のうちに従属させられている我々が、意識して別の「世界」に引っ越すことを、自由と呼ぶならば、勉強は必要不可欠ということになる。

専門領域に踏み入れる勉強は、アイロニー(ツッコミ、根拠を疑う態度、深追い)と、ユーモア(ボケ、見方を多様化する態度、目移り)に分けることが出来る。しかし、双方が無限の追究(ニヒリズム)、結合(リゾーム)に陥る危険性を秘めている。どこまで勉強すればいいのかわからなくなる。ここで現実的には、自分自身の【享乐的こだわり】が、有限化のポイントになる。けれど、それは必然的なものではない。勉強は、【わくわく】にしたがって、ここまでやった、の仮固定を積み重ねる中で、更に深い【興味】を発掘していく粘り強いプロセスなのだ。

今は、区切られた勉強をこなせば良い。でも、その先を見据え、受験が終わった後、【学問】に向かう時にこそ、本書を読んで欲しい。受験直前期にこのメッセージを書くなんて、私は「ノリ」が悪い。だけど、それを自覚した上で敢えて「言葉」を選んでいるのだから、【来たるべきバカ】に漸近していると信じたい。(文責：奥田)

♪2年の窓♪ 9月をどう過ごすか？ 後期をどう過ごすか？ 残りの高校生活をどう過ごすか？

夏休みが終わりました。様々な経験ができる好機でしたが、有意義に過ごすことはできたでしょうか。「進路」の観点で言えば、2年生の皆さんは下の①～③の3つを実践することが求められていました。

- ① 各科目、夏課題をていねいに行きつづけて力をつける。希望者補習に参加する。9月の期末考査対策を含め、既習分野の基礎部分をよく復習し、定着を図る。これまでに受けた模試の振り返りや、今後受ける模試に向けた対策として、応用的な問題に取り組む。【教科学習】
- ② オープンキャンパスに参加し、目指す大学や、大学で専門的に学びたいことをよく考える。目指す大学・学部・学科に出逢えたら、その大学の合格に必要な力は何か関連資料(入試について)を調べる。志望大学合格のために、今後、どのような取り組みが必要かを考え、実践を始める。【大学研究・入試研究】
- ③ 「夢ナビ講義動画サービス」を活用し、興味・関心があるテーマの講義動画を2本以上視聴する。視聴した内容をワークシートにまとめる。探究ゼミの活動を進める(活動を進める過程で進路に関する視野が広がる)。これらの活動をきっかけに、学部・学科研究を深める。【学部・学科研究】

3つの達成具合は如何だったでしょうか？「まずまず達成できた」という人が大半であったことを願います。「不十分だった」という人は、求められていたものを、早めに、そして確実にやり遂げましょう。

2年生の前期終了は高校生活の折り返しです。入学時から現在までの取り組みを振り返り、自分にどれだけ力が付いたか分析しましょう。残りの高校生活をこれまでと同じように送れば希望進路を実現できるという結果を得た人は、計画的で、適宜、改善ができる人です。どれほどいるでしょうか。実際には、反省する部分が多く、先のことが不安な人が少なくないのではと思います。何事も、目標の達成には準備が必要です。先を見通す力や現状を点検し改善する力は特に大切です。これは、実践の積み重ねによって磨かれていくものです。まずは、期末考査の準備に注力を。学習、探究、進路、部活、学校行事等、様々な活動を行う中でPDCAサイクルが錬磨され、今後の皆さんの成長度が折り返し前までよりグッと高まってくることを願います。頑張ってください！

(文責：石田)

♪1年の窓♪

前期の締めくくりに向けて

(文責：若園)

夏休みが終わり、9月に入りました。もう高校生活の6分の1が終わろうとしています。夏休み中の進路課題に取り組む中で、少しは自分の進路を考えることができた人もいると思います。オープンキャンパスにいった人もいることでしょう。夏課題を通じて、自分が文系寄りなのか理系寄りなのかを認識できたり、自分にとって意外な学問や職業が発見できたりしたと思います。いろいろなことを見聞きすることで、興味の幅が広がり、自分の進路選択の幅も広がります。現在進路希望が決まっている人も、早合点せず、他分野のこともたくさん勉強して、もう一度自分の進路を見直してみましょ。人はゴールテープが見えないうちは全力疾走することができません。ゆえに早めに志望校を決めると受験に有利となります。少なくとも2年生の終わりまでには決めておけるといいですね。逆算すると1年生のうちに、いかに多くの講座や説明会、調べ学習をして情報を取り入れておくかが大切です。是非、日頃教室に貼ってある掲示物に興味をもって、“自分から”積極的に参加してみましょ。

さて、もうすぐ前期末考査です。どれだけやりたいことが見つかって、学力がついていないと選ぶことができません。これまでの皆さんを見ていて強く感じるのは、勉強に対する意識の低さです。家に帰ってから勉強をすることが当たり前になっていない人がたくさんいます。また、学習習慣が身につけていても、平日3時間、休日6時間勉強できている人はほとんどいません。夏休み中の勉強に対する取り組みも、課題テストの結果を見る限り非常に悪いものだったと評価せざるを得ません。7月の進研模試の結果も振るっていません。なんとか11月の進研模試に向けて、後期は学力を上げることに専念していきましょう。結果を変えるには、行動と習慣を変えるしかありません。まずは目の前の前期末考査をきっかけに、自分の学習量、学習方法などを見直し、すべての科目で満点を目指して努力していきましょう！期待しています！